

# 画像診断・核医学科

## 1. 目的と特徴

東京女子医科大学放射線医学教室は昭和17年に初代の島津フミヨ教授が就任されて以来、日本の放射線医学界の中でのリーダーとして発展を遂げてきた歴史ある教室である。本学の建学精神である「至誠の心」と「愛」を基本に豊かな人間性と十分な知識、技量を持って医療に従事し、専門性の高い放射線科医を養成して医療全体に貢献することを目標として研鑽を積んできた。

近年の急速な放射線医学の発展は、これまでの放射線診断学、核医学、治療学からなる放射線医学教室を再構築し、新たな学問分野を確立して現代の高度医療に対応する姿勢が求められている。本学においても、2009年5月に画像診断学・核医学講座が新設され、高い専門性を有する本学の臨床分野と協調しながら発展させていく段階にある。先端放射線機器を取り揃えている当大学病院は、放射線腫瘍学の分野と共に、社会に貢献する放射線医の育成に向けて、画像診断学・核医学の幅広い知識と技術を習得することが可能な有数の施設である。

当科のモットーは、教授・基幹分野長以下スタッフ全員が優秀な人材の育成に労を惜しまないことである。まずは検査法や臓器に関わらず広範囲に能力を発揮できる **generalist** として育成することを目指し、その上で、専門領域の検査法や臓器では、より高い検査・診断能力を有する専門家を輩出したいと考えている。

## 2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長	坂井修二	講師	森田 賢、鈴木一史、金子恒一郎
准教授	長尾充展	准講師	早野敏郎

## 3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学病院

(概要)

- ・CT：6台（320列2台、64列5台）
- ・MRI：6台（3T 3台、1.5T 3台）
- ・トモシンセシズ：透視2台、一般撮影1台、マンモグラフィ1台
- ・エネルギーサブトラクション撮影可能DR：1台
- ・血管撮影装置：8台
- ・ハイブリッドOR装置：2台
- ・手術室オープンMRI装置：2台
- ・マンモグラフィ/マンモトーム装置：1台
- ・超音波装置（中央検査部と共同運用）
- ・SPECT装置：2台（内1台、半導体SPECT）
- ・SPECT/CT装置：2台
- ・PET/CT装置：2台（64列、内1台半導体検出器）
- ・サイクロトロン：1台（F-18 FDG, C-11 メチオニン, N-13 アンモニア合成可能）
- ・PACS：2014年1月より完全フィルムレス化。  
（専用読影端末では、SAIviewerによるAIを用いた読影が可能）
- ・汎用型画像処理用ワークステーション：VINCENT、AZE、Syngo.Via、ZIO等

研修協力施設：

- ・東京女子医科大学足立医療センター
- ・大久保病院
- ・河北総合病院
- ・三沢市立三沢病院
- ・東京女子医科大学八千代医療センター
- ・東京都立多摩総合医療センター
- ・埼玉県済生会加須病院
- ・埼玉県済生会川口総合病院

#### 4. 研修カリキュラム

A：一般目標

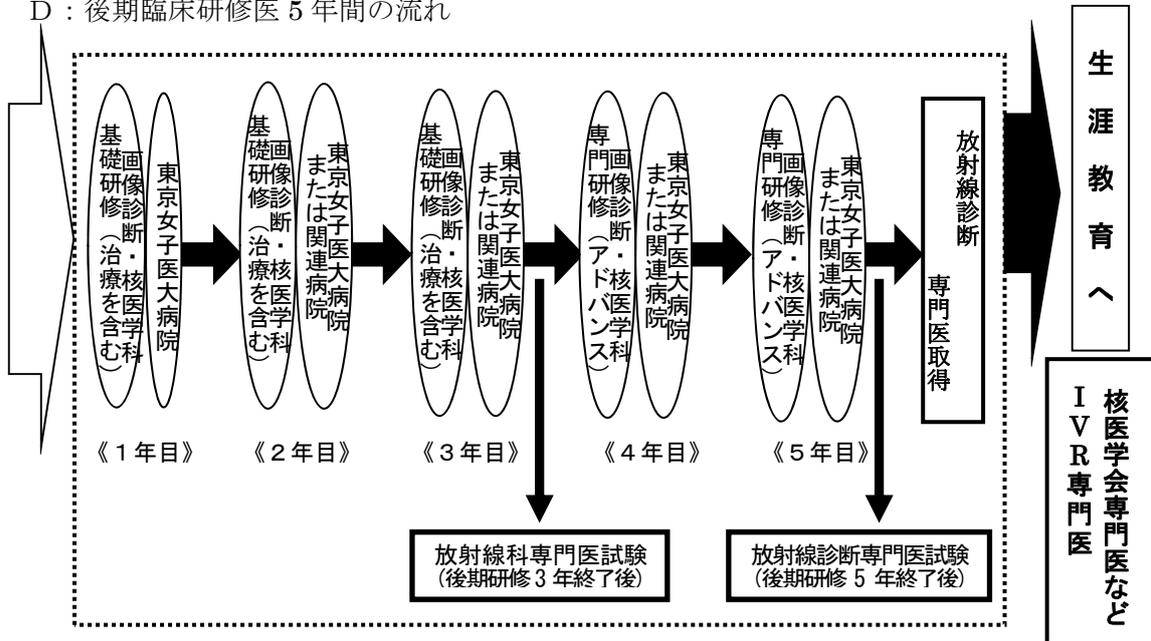
放射線医学全般にわたり幅広い知識を身につけるとともに、種々の画像診断法ならびに核医学の基礎的・基本的技能を習得し、また、臨床医および放射線診断医としての基本的姿勢や日本医学放射線学会専門医ならびに診断専門医の取得に向けて放射線医学の学習方法を身につけることを第一の目的としている。具体的には、CT や MRI、SPECT/PET の読影に加え、血管系・非血管系の IVR、胸部や骨の単純 X 線撮影、マンモグラフィーの読影や、腹部および表在臓器の超音波検査も行える総合画像診断医の育成ができるスタッフが揃っており、入局後には全ての後期臨床研修医はこの総合画像診断が行える放射線科医になることを目指す。また放射線専門医、放射線診断専門医の取得にあたり、放射線治療の研修は当院放射線腫瘍科と協力して行っている。

B：行動目標

- 1) 社会人として大学・病院ならびに医局の規則を守ることができる。
- 2) メディカルスタッフや同僚・他科医師と協調し診療を行うことができる。
- 3) 患者やその家族と良好なコミュニケーションをとることができる。
- 4) 医療安全管理の基本が説明でき、実践できる。
- 5) 指導医のもとで、学会に参加し、発表できる。
- 6) 指導医のもとで、論文作成ができる。
- 7) 放射線基礎医学としての物理学、化学、生物学、法令等についての基本的事項を理解できる。
- 8) 放射線の単位について理解できる。
- 9) 単純 X 線撮影、マンモグラフィー、造影検査、CT、超音波検査、MRI、核医学検査の成り立ちの基本を理解し、説明ができる。
- 10) 造影剤の適応および有用性とその副作用を熟知し、副作用発生時に適切な対応ができる。
- 11) 放射線測定機器の種類と計測原理を理解できる。
- 12) 医学で利用される放射性核種の種類と特性について理解できる。
- 13) 放射線の種類と壊変形式や臨床に用いる原理を理解し、説明できる。
- 14) 医学に利用される放射性核種の生産法について理解できる。
- 15) 核医学診療における放射性薬剤の取扱いを習得できる。
- 16) 医学で利用されている放射性化合物の種類と性質、体内挙動について理解できる。
- 17) 核医学診断法 (in vitro test, in vivo test)、RI 内用療法の原理を理解できる。
- 18) 医療被ばくについて理解できる。
- 19) 各患者の状態によって、治療方針決定のための適切な検査法を選択できる。
- 20) 代表的な疾患の画像に表される病態を理解し、その読影診断が可能である。
- 21) 画像診断を用いた治療・診断手技 (IVR) の適応や合併症を判断し、手技に際しては指導医の補助ができる。また、基本的な手技に関しては自分でほぼ行えるようになる。
- 22) 院内のカンファレンスで、主要な疾患の画像所見について討論することができる。

- C：教育に関するスケジュール
- スタッフレクチャー：週 1 回
  - 症例レビュー：週 1 回
  - 核医学カンファレンス：週 1 回
  - 核医学勉強会：週 1 回
  - 神経放射線フィルムカンファレンス：週 1 回
  - 神経内科カンファレンス：週 1 回
  - 消化器外科カンファレンス：週 1 回
  - 呼吸器カンファレンス：月 1 回
  - びまん性肺疾患カンファレンス：月 1 回
  - 泌尿器科カンファレンス：月 1 回
  - 婦人科カンファレンス：月 1 回
  - PET-CT 読影会：月 1 回
  - 放射線科・病理・乳腺内分泌外科カンファレンス：月 1 回
  - 膠原病肺画像カンファレンス：年 6 回
  - 消化器カンファレンス：年 4 回
  - 学会予行等：月 1-2 回

D：後期臨床研修医 5 年間の流れ



E：プログラム終了の認定

後期臨床研修医期間修了と日本医学放射線学会放射線専門医かつ放射線診断専門医の取得をもって、放射線科後期研修プログラム終了の認定に充てる。

5. 後期臨床研修医修了後の進路

後期臨床研修医修了後は原則として助手もしくは助教で採用可能。本人の希望と状況を考慮してより高度の研修を行う。必要によっては国内・国外留学の機会を与える。

6. 学位

大学院に進み、博士課程修了時に東京女子医科大学大学院医学部研究科委員会に学位（課程博士）を申請することが可能である。

また、一定の研究期間が認められ、語学試験に合格し、教授・基幹分野長から与えられた研究テーマの学位論文および副論文を作成し、それが掲載された者に対し、診療・研究などの状況が医学博士に値すると教授・基幹分野長が判断した場合には、東京女子医科大学大学院医学部研究科委員会に学位（論文博士）を申請することが可能である。

## 7. 専門医

日本医学放射線学会専門医、日本医学放射線学会診断専門医、日本核医学会専門医、I V R 専門医、超音波専門医・超音波指導医、乳腺認定医・乳腺専門医、マンモグラフィ読影認定医師、P E T核医学認定医などの資格の取得が可能である。

## 8. 問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1  
東京女子医科大学画像診断学・核医学分野  
URL: <http://www.twmu.ac.jp/RAD/ign/>

医局長 鈴木一史  
TEL 03-3353-8111 (28270)  
FAX 03-5269-9247  
E-mail:suzuki.kazufumi@twmu.ac.jp

副医局長 太田 貴美  
TEL 03-3353-8111 (28280)  
FAX 03-5269-9247  
E-mail:ota.takami@twmu.ac.jp